

うさぎとかめの通信

上越市立高田幼稚園

(園長室だより) 108周年
令和6年10月2日 第197号

HPのQRコード→



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

☆幼児教育にある個別最適な学び☆

まつ組は、1学期から引き続き〇〇研究室遊びをしています。研究室という共通のテーマでの遊びですが、それぞれが自分の興味や関心の事柄で遊びを作っています。例えば、こん虫研究所、色水研究所、美容研究所、恐竜の化石研究所、なんでも研究所など、みんなでやっているものもあれば、一人で進めているものもあります。また、季節によって、カブトムシからバッタ、トンボに変わるなど、やっていることが変わっていくのも子供の遊びの面白い所です。



ある子は、カブトムシが死んでしまってから、何をしようか迷っている様子でした。そんなとき、担任の先生は、子供たちのつぶやきに耳を傾け様子を観察し、子供たちの興味を探っています。給食の様子を見ながら、うどんやラーメンの麺が好きな様子を見つけ、その子に声を掛けたり、小麦粉を用意して置いたりしました。小麦粉を見つけた子は、自分から水と小麦粉を混ぜ、堅さを調節しながらうどん作りを始めました。「足で踏むといいんだ」とビニールに入れた小麦粉を踏んで堅さの研究や麺を細くする研究も始めました。

子供たちは、やりたい！と思うことを見つけたら、それに対してやり方を考え試行錯誤しながら自分で遊びを作り上げていきます。まさに「個別最適な学び」を子供たちは実践しています。

上智大学の那須正裕教授は、「『個別最適な学び』は、個別化すると同時に自立化することです」、そして、「一人一人が自分に合ったやり方を選び、自分に必要な学びを自分でつくれる『個別最適な学び』を『自己調整』して進める力を育成すること」の重要性を述べています。そのヒント①②が幼児教育にあると言われます。

- ①多様な子供のニーズに合わせた多様な選択肢を用意し、それぞれのペースで個性的に取り組めるよう工夫すること。
- ②子供を丁寧に見ること。すると、意外な子供が成長する姿を見つけたり、支援するタイミングを見逃さないようにしたりできる。

幼稚園では、子供が利用可能なものが全部あらかじめ環境の中に意図的に準備されています。子供たちは必要な時に、必要なものを取りにいき、遊びの中で学習していきます。先生方は、子供たちの興味や関心へのアンテナを高くして、あらかじめ必要なものを準備してセットしておきます。また、常に子供たち一人一人をよく見て耳を傾け援助のタイミングを逃さないようにしています。

幼稚園での遊びは、子供が自ら遊ぶ、自ら学ぶ、自ら歩むという生きる力につながっています。

☆環境を守ろう！

地域をきれいにしよう！☆

今年度は、全県の国公立幼稚園・こども園が、環境に関わる取組をPTAで行うことにしています。高田幼稚園では、7月21日に上越市環境科学センターの方より、子供たちに「ゴミの分別」について教えていただきました。9月5日には、新潟県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の大野会長より、「環境を守ろう」というお話を全園児にいただきました。そして、9月30日に、高田城址公園に親子でのクリーン作戦に出かけました。「あつた！たばこの吸い殻」「あつた！お菓子の袋のかげら」「ゴミだと思ったのに、キノコだった～」と、見逃してしまいそうな小さなゴミを見つけて集めることができました。子供たちの方が、見つけるのが上手でした。とってもきれいになり、さわやかな気持ちになりました。



大野会長からのお話



クリーン作戦

☆金谷山まで遠足にいきました！☆

9月27日（金）に金谷山まで遠足に行きました。高田幼稚園からみんなで歩いて、金谷山スキー場の駐車場まで行きました。途中で、休憩をとりながら歩きましたが、誰一人弱音を吐く子がいませんでした。広場のテントの近くにリュックを置き、金谷山の頂上を目指しました。リフトの近くが一番急な坂道をぐんぐんと登って行きました。みんなが頂上に着いて、上越市の町並みを見下ろしながら「海が見えるよ」「高田幼稚園はどこかなあ」と景色を楽しみました。

山頂からぐるっと回ってレルヒ像の所によっておりてきました。おいしいお弁当を食べた後も、「バッタがいた」「トンボを捕まえた」等と、草原を走り回って遊びました。

頑張って歩き通し、昆虫や木の実など自然を楽しんだ遠足になりました。

